

平成26年度 山口県立下関中央工業高等学校 学校評価書 校長(中村 圭治)

1 学校教育目標	
教育目標・・・・・・①明朗健全な心身の発達をはかる。②勤労を愛好し、個性豊かな技術者としての資質の伸長をはかる。③誠実を旨とし、旺盛な責任感と協調の心情をつちかう。 中・長期目標・・・・①「質実剛健」の校訓のもと地域との連携を図り、地域から信頼され、共に感動できる学校づくりの推進 ② 生徒の個性を育て、進路希望に応じたキャリア教育の推進 ③ 工業技術の基礎基本を習得させ、ものづくりを支える専門的職業人の育成	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
就職希望者数は微増減を繰り返しているが、本校は歴史的に地域産業・経済と密接な関係にある。このことから保護者、地域との連携は不可欠であり、その関心と意見をますます尊重していかなければならない。また、地域産業を担う人材の育成という面から、本校での資格取得は重要である。在校中だけでなく、卒業後の資格取得も見据え、生徒・保護者とのより積極的な情報交換と一層の啓発に努める必要がある。	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
次世代で活躍し、信頼される人材の育成 『凡事徹底』 「資格取得」、「ものづくり」への支援 ① 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得 ② 社会人として必要な基本的な生活習慣の確立 ③ 教職員の協働体制による組織力の向上	(《学校チャレンジ目標》) 「生徒自らが自分を高めるPDCAによるチャレンジ目標の設定と実行」

4 自己評価				5 学校関係者評価				
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価	
教務課	学習指導	国語・数学・英語の基礎テストを年間計画に従って実施する	得点率8割以上の生徒が 4:60%以上 3:50%以上 2:40%以上 1:40%未満	3	1月までに実施されたものの結果を平均した、得点率8割以上の生徒の割合は57.6%とやや目標を下回った。9月までが66.4%であったことを考えると、9月以降問題の難易度が上がったことや、生徒の意欲が低下したことが理由として挙げられる。生徒の意欲を持続させるための工夫が必要である。	基礎学力の向上はとても重要である。今までの取り組みをお願したい。成果は必ず現れると思う。	B	
	基礎学力の向上	「図書だより」を発行し、図書室の利用度を高める	図書室の一ヶ月の延べ利用者が 4:200人以上 3:100人以上 2:50人以上 1:50人未満	3	1月までの「図書室の一ヶ月の延べ利用者」の月平均は146.6人となった。デジタル化が進む現代において、本に頼っている生徒がいることは喜ばしいことであり、今後も利用を促したい。	思った以上に生徒利用があり、当番活動も成果を上げて聞いた。将来必要なこととして図書マネージャーも教えてほしい。	B	
	図書関係	「図書だより」を発行し、図書室の利用度を高める	図書室の一ヶ月の延べ利用者が 4:200人以上 3:100人以上 2:50人以上 1:50人未満	3	1月までの「図書室の一ヶ月の延べ利用者」の月平均は146.6人となった。デジタル化が進む現代において、本に頼っている生徒がいることは喜ばしいことであり、今後も利用を促したい。	校内外のボランティアを含めて積極的に取り組まれていると思う。PRしてよい。一人ひとりの意識向上が全体に広がっていけると思う。	A	
	読書習慣の定着	学期に数回、美化委員による美化活動の日を設ける	美化活動の実施回数が年間 4:12回以上実施 3:10回以上実施 2:8回以上実施 1:6回以下	4	1月までに24回実施した。計画通りに美化活動が行われており、校内の美化に貢献している。今後は活動内容をさらに充実させたい。	校内外でも服装の大きな乱れは見られない。あいさつの指導もあり、部活動を中心に指導が密に成されていると思う。	B	
生徒課	環境整備	学期に数回、美化委員による美化活動の日を設ける	美化活動の実施回数が年間 4:12回以上実施 3:10回以上実施 2:8回以上実施 1:6回以下	4	1月までに24回実施した。計画通りに美化活動が行われており、校内の美化に貢献している。今後は活動内容をさらに充実させたい。	校内外でも服装の大きな乱れは見られない。あいさつの指導もあり、部活動を中心に指導が密に成されていると思う。	B	
	学校内外の美化	学期に数回、美化委員による美化活動の日を設ける	美化活動の実施回数が年間 4:12回以上実施 3:10回以上実施 2:8回以上実施 1:6回以下	4	1月までに24回実施した。計画通りに美化活動が行われており、校内の美化に貢献している。今後は活動内容をさらに充実させたい。	校内外でも服装の大きな乱れは見られない。あいさつの指導もあり、部活動を中心に指導が密に成されていると思う。	B	
	生徒指導	「挨拶の励行」、「皆勤の奨励」、「服装や身まの厳正」等、真摯な生活態度や基本的な生活習慣の育成を図る。規範意識の高揚に努める	定期的に行う頭髮服装検査の合格者が 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	3	一学期 二学期 三学期 4月...81.0% 9月...93.4% 1月...92.0% 計...88.7% 5月...84.0% 10月...93.9% 1年...84.5% 2年...89.8% 6月...89.5% 11月...90.8% 3年...91.1% 7月...83.0% 12月...90.3% 二学期より上級生主導で向上。 平均 84.4% 平均 92.1% 1年の自律心を育成する必要がある。	校外でも服装の大きな乱れは見られない。あいさつの指導もあり、部活動を中心に指導が密に成されていると思う。	B	
	基本的な生活習慣の醸成	保健体育	体育授業中に走・跳・投トレーニングを体づくり運動として取り入れて生徒の体力の向上を図り、新体テストの各種目数値が県平均を上回るように支援する。	前年度の県平均を上回った種目数が (内)は女子 4:5種目以上(3種目以上) 3:3種目以上(2種目) 2:1種目(1種目) 1:なし(なし)	3	◇2年男子...6種目(握力・上体起・反復・持久走・SR・ボール投) ◇2年女子...1種目(体前屈) ◇3年男子...5種目(握力・反復・持久走・SR・ボール投) ◇3年女子...1種目(体前屈) ・男子は、部活動と授業(持久走)の成果がみられるが、50m走・立幅跳などスピード・瞬発力系の低さが目立つ。 ・女子は2・3年とも1種目と低迷しており、なんらかの対応が必要。	体力面の向上は重要であり、成果も上がっていると思う。体育の授業に加え、運動部の加入率向上と女子生徒の体力面のサポートをお願いしたい。	B
進路指導課	教育相談	生徒の状況を把握するため、アンケート調査を実施する。係会を定期的に実施し、情報交換や情報共有を図る。「教育相談だより」を発行し、SC来校日を連絡してSCの利用を活性化させる。	4:係会15回以上、便り8回以上 3:係会12回以上、便り6回以上 2:係会8回以上、便り4回以上 1:係会8回未満、便り4回未満	4	・係会は15回実施し、便りは8回発行した。生徒理解と支援のために学年ごと情報交換会を行った。SCの適切なアドバイスをもとに、生徒・保護者への支援を行っている。 ・学期ごとのアンケートでは、学校生活をより良くするためのアンケートと、Fitアンケートを実施。生徒の状態の変化を知る上で有効な資料となり、生徒理解を深めた。いじめ問題に対してアンケートを中心に未然防止・早期発見に力を注いだ。	アンケートを始めとして良く取り組み、成果を上げていると思う。SCの活用、情報交換の場の設定など取り組みができている。	B	
	教育相談活動の充実	進路実現	3年間のキャリア教育プログラムを通して、全ての生徒の希望する進路が実現するよう支援する。	卒業時における進路未決定者が 4:なし 3:5名以内 2:10名未満 1:10名以上	4	・5・6月に求人開拓のための企業280社を訪問した。市内の企業を中心に人材不足の影響で、求人が増加した。特に建設業界では、工事量の増大と世代交代の影響で人材不足が深刻化し、求人が増大した。応募前職場見学には、県内延べ53社訪問。全教員で生徒引率をして生徒のマッチングへの指導も円滑化した。キャリア教育では、2年次のインターンシップを行った。事前指導や安全教育を実施し、目的や意義を把握させることができた。	景気の上向きもあり、指導の成果が上がっている。大企業求人も増えていると聞いた。進学希望者の増加もある中で、学科の特性を活かした進学も意識して一層の進路指導をお願したい。	A
	夢を実現するためのキャリア教育を充実させ、生徒の進路を支援する	PTA活動	PTA総会、地区懇談会、校内諸行事への参加を呼びかけ、学校と保護者との連携を深める。	PTA総会における出席率が 4:50%以上 3:35%以上 2:20%以上 1:20%未満	3	・PTA総会の出席率は、48.1%であり、昨年の30%を改善した。さらなる向上に向けて、取り組む必要がある。地区懇談会では、3会場231名の出席で、昨年と同水準であった。進路、保護者間のつながりのために、出席率を向上させる手立てをしなければならない。 ・PTA企業見学会、全国高等学校PTA連合大会等の諸活動に役員をはじめ多くの保護者の方々に参加していただき、就職先企業の業務内容、保護者間の情報交換を通して、保護者のスキルアップが図れた。	総会の出席率向上は、保護者の学校への期待や意識の表れである。情報交換の場や研修の場など工夫されている。地区懇談会の開催についてはPTA役員と相談しながら改善を図る必要がある。	B
	PTA活動の充実	ものづくり教育の充実	ものづくりコンテストやロボット競技大会に積極的に参加し、技術や技能を高めるとともに、ものづくりに関する意欲や関心をもたせる。	ものづくりコンテストやロボット競技で 4:優勝が1、入賞が2以上 3:入賞が3以上 2:入賞が2以上 1:入賞が2未満	2	高校生ものづくりコンテスト測量部門県大会3位。 高校生ものづくりコンテスト化学分析部門県大会3位。 入賞が2。	全国的にはレベルの高い争いになっており、ものづくりに対して志高く持って積極的に取り組んでいると思う。一層の指導と取り組みをお願いしたい。	B
工業科	専門的職業人の育成	資格取得のための支援を行い、取得によって工業技術や職業人としての意欲や関心を高める。	1月末のジュニアマイスターポイント合計 4:1900ポイント以上 3:1700ポイント以上 2:1500ポイント以上 1:1500ポイント未満	3	2月末時点でジュニアマイスターポイントが、延べ人数616人で合計1747点	生徒数に合わせてポイントの調整を行い、昨年を上回る成果である。合格率の向上を目指してより一層の取り組みの充実と工夫をお願いしたい。	B	
	職員管理	職員定期健康診断等による要精密検査者の受診を促進する	4:全職員が受診した。 3:80%以上の職員が受診した 2:60%以上の職員が受診した 1:受診した職員が60%未満であった	2	・要精密検査対象者29人のうち、20人が再受診し受診率69.0%となった。自己の健康への興味・関心を高めながら、受診率の向上に努めたい。			
	職員の健康管理	日常的な業務	定例の職員会議・運営委員会等を1時間以内で終える	1時間以内の会議が全体の 4:100% 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満	3	・各科、課での打ち合わせ、情報交換、調整等が効率よくできており質疑審議がスムーズである。		
	会議時間の短縮	勤務状況	超過勤務の割振りを適切に行い、休暇を取得しやすい雰囲気作りを行う	年休等の取得平均が 4:16日以上 3:13日以上 2:10日以上 1:10日未満	2	・年休 9.3日、夏期厚生計画 3.6日 計12.9日 (26年1～12月までの計)		
業務改善	超過勤務及び多忙感の解消							

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
(教務課)基礎学力の向上の成果は少しずつ現れており、図書館の運営、生徒活動についても図書便りの発行など活性化している。 (生徒課)学校行事においては高校生らしい盛り上がりがあり学校も活性化し、また団体行動としての行動や作法も大きな成果があった。生徒個々人が自覚に基づいて、整った基本的な生活習慣を維持できたか、校内での礼儀作法は良くなったかについて検証反省を促していきたい。生徒会活動も充実し、全校生徒による野球応援で「キラリ夏賞」を受賞。部活動における中国大会出場も昨年度よりも増え、高く評価できる。 (進路指導課)求人件数の増加に伴い、より一層卒業後の定着率、離職数が注目されるようになった。保護者の関心を高めるようPTA活動を展開し、進路指導に力を入れている。 (工業科)各種資格試験の合格率は徐々に向上し、成果を上げている。中国地区レベルでの成果を上げる生徒も出てきているので今後につなげていきたい。	

7 次年度への改善策	
(教務課)年間を通して意欲が向上していくような手立てを工夫し、教務、生徒指導、進路指導の連携をさらに強化しながら、基礎学力の向上を目指していく。 (生徒課)年間を通して意欲が向上していくような手立てを工夫し、教務、生徒指導、進路指導の連携をさらに強化しながら、基礎学力の向上を目指していく。 (進路指導課)キャリア教育の強化充実を図るため、実習やインターンシップ等で得られた体験を活かし、生徒一人ひとりの「学びのチャンス」を支援していく。 (工業科)ものづくりコンテストをはじめ各種競技会への参加に関して、施設設備器具による部分も大きいので新高校の実習棟建設には期待している。資格取得に関しては今まで以上に教員間、部活動間の連携を図る。	